

戦後保健科教育小史

○岡崎 勝博（東海大学）

キーワード：保健科教育，保健科教育史，保健授業

はじめに

日本保健科教育学会が2016年に設立される。学会設立にあたり、この分野の研究史、実践史等の編纂が早急な課題となってくる。須らく学問や学会は、「どこからきて」「どこへいくのか」について議論し、研鑽を重ねることを第一の課題としているからである。ところが、保健科教育の分野においては、かつては何編かの通史的研究は行われてきたのであるが、最近では学問史研究が見当たらないのが現状である。

これまでの保健科教育史は12編執筆され、最近の執筆では1988年の内海和雄論文¹⁾になる。本論文は氏の論文を参考にし、それ以降の保健科教育の変遷についても執筆を試みた。氏の論文を参考にしたのは、対象とする期間が長いことと、対象として取り上げられる内容が保健科教育の目標論・内容論・教材論や授業論に焦点を当て分析が行われているからである。教科教育研究が、「何のために」「何を」「どう教えるのか」に答える研究であることを考えると、何よりもこれらの課題解決に参考となる道標を作成することが急務と考えたからである。

戦後保健科教育小史の概略

戦後保健科教育小史（概略）の編纂を行った。「雨降り保健」と揶揄されながらも戦後70年の時が経過し、この間紆余曲折ではありながらも多くの成果が蓄積されてきたことに気付かされる。しかし、本論で扱われなかった実践や研究がまだまだ多数報告されているが、これらの分析は次回の課題としたい。なお、今回は主に『体育科教育』誌上に掲載された論文を中心に編纂を行った。それは、本誌が唯一保健体育教師を対象とし、長きに渡り保健科教育のその時々々の状況を映し出し

てきたからである。

また小史を編纂するにあたり、保健科教育の研究蓄積が不足していることに気付かされる。たとえば学習指導要領の変遷や構成原理に関する分析、保健科の目標論についての分析、教科内容とその構成原理、教材論・授業づくり論についての分析、子どもの健康課題を把握する方法論、そして何よりも保健科教育の実践史が蓄積・整理されていないことなどが挙げられる。個々の研究が蓄積されることを待って、より詳細で質の高い小史が編纂されることを期待したい。

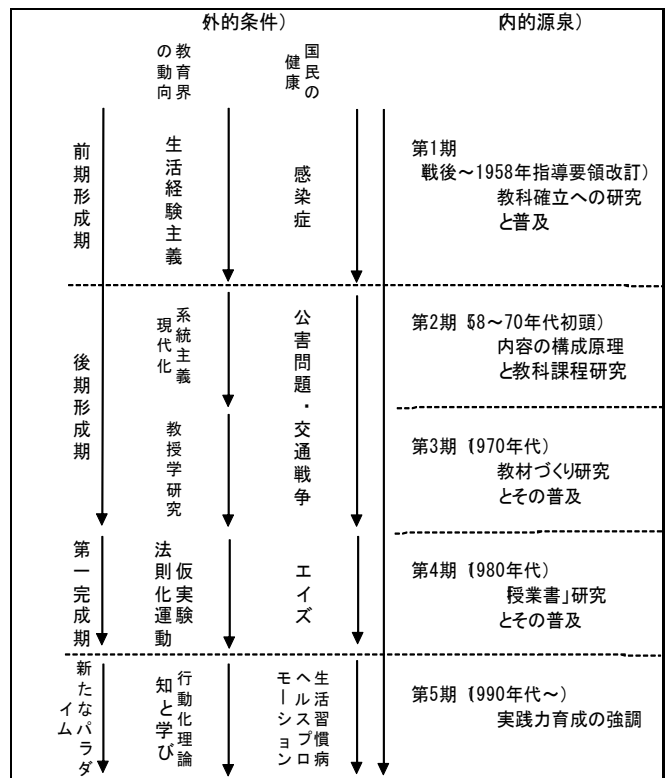


図 戦後保健科の変遷
(内海和雄論文の一部改編)

文献

- 1) 内海和雄：戦後保健科教育小史。『体育科教育』36(10)：頁。1988。